

第73回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年6月8日(月) 14時～17時

兼題「夏帽子」「麦わら帽」

- 川井素山 ○昆布干す浜の女の太き^{しり}臀
一盛の鮑こりこり昼の酒
掛流し旅の終りの籠枕
ルネサンスてふ学舎の夏帽子
- 保井寶正 ○美少女の浴衣清がしき下駄の音
夏帽の少女の乳房弾けをり
幼子やカンカン帽の独楽となり
甚平を孫にも着せて夜深まる
- 青木英林 ○短夜や朝刊の音コトリとす
十薬や小さき庭を占拠さる
立葵追いかけて咲ける昼下り
夏帽子生垣越しに見え隠れ
- 後藤克彦 ○炎昼や閑古鳥鳴く貸しボート
炎天下草刈る妻の強きかな
麦わら帽斜めに被り子に還る
蜘蛛の罫日に日に広がる軒の下
- 佐久間喬 ○立山や夏帽の列蟻のごとし
テラスにて語らふ^こ娘等の夏帽子
露天湯でああ極楽の風薫る
ベランダに雨の大粒茄子の花
- 永井正孝 ○竹林の騒めきのした者莪の花
バラ^{こぼ}零れももいろの香移りゆく
木洩れ日のかげら浴びたる額の花
過ぎし日の彼の人写すパナマ帽

- 丸山酔宵子 ○一陣の風で零れる薔薇一片
右ねじり小花愛ほしひねりばな
畦道を駆ける子供等麦藁帽
二日酔い現の証拠の白さかな
- 菊地崇之 ○菖蒲園巡れば有りし日の父に
紫陽花や隣家忍ばむ枝一枝
借畑麦稈帽の花咲かす
驕りしに天然鰻奢らしむ
- 牧野里山 ○夏帽子巨大迷路に見え隠れ
富士裾野樹林の中の遅き春
山影の山ユリの群風に揺れ
竹刈りは老も若きも賑やかに
- 佐久間たか子 ○菖蒲池水あをあをとたたえをり
蛍狩り波長の光闇冴える
大小の話弾んで麦わら帽
夏帽子カフェテラスにも花が咲く
- 佐伯武雄 ○地ビールに訛り聞える夕べかな
上品な妻に変身夏帽子
ホットパンツ美脚に目^{まなこ}拉致される
空梅雨やデパ地下巡る鰻^{やもお}かな
- 大山竜海 ○何処目指す憲法記念日憂ひあり
麦わら帽匂い愛しき幼き日
球を追う孫の足元汗落ちる
波光り孫泳ぎ居て末思ふ
- 吉田啓悟 ○藤棚の白き揺れより風立ちぬ
網棚に麦稈帽のわすれあり
穴子飯姫路に遊ぶ話あり
青嵐一身上の都合にて

山本草風 ○清明や老いに鞭打て孫あそべ
燈刻に一陣の風薄暑かな
遠くから親父とわかる夏帽子
ころもがえ
更衣思ひ新たに明日を着る

金森純女 ○夏帽子ゴムのびきって背せ中で揺れ

向日葵も頭こうべ重たし五十肩
虫かごのゆず坊ぼっとな夜半の糞
床の間に紫陽花揺るる一人旅

次回 「萩句会」

日時 2015年7月13日（月）14時～17時

兼題『花火』一句

当季雑詠三句 計四句